

I. 平成23年度の概要

1. 事業について

公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、平成22年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。

当該期間は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 (公1)	1. 研究助成 2. 海外共同研究支援助成 3. 研究会・シンポジウム開催助成 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞事業（第9回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第28回高峰カンファレンス）

2. その他について

- (1) 第一三共株式会社より、平成23年4月15日、指定寄附金として、1億5,500万円を受領した。
- (2) 平成23年4月22日の第2回選考委員会において、平成23年度海外共同研究支援助成、同年度研究会・シンポジウム開催助成並びに第9回高峰記念第一三共賞第一次候補者の選考を行った。
- (3) 平成23年5月25日の第9回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者の選考を行った。
- (4) 平成23年6月1日の第4回理事会において、基本財産の指定、平成22年度（平成22年10月1日から平成23年3月31日まで）の事業報告及び決算報告書、平成23年度海外共同研究支援助成、同年度研究会・シンポジウム開催助成の各助成対象者の決定、第9回高峰記念第一三共賞の受賞者決定、選考委員の選任及び「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の件について、審議され、承認を得た。
- (5) 平成23年6月22日の第2回評議員会において、平成22年度（平成22年10月1日から平成23年3月31日まで）決算報告書について、審議され、承認を得た。
- (6) 第5回理事会として、平成23年9月14日に理事及び監事全員の書面により同意を得て、第一三共生命科学研究振興財団の主たる事務所移転の件及び第3回評議員会

を「決議の省略」の方法により行うことの承認を得た。

- (7) 第3回評議員会として、平成23年9月28日に評議員全員の書面により、同意を得て、定款変更（主たる事務所の住所変更）の承認を得た。
- (8) 平成23年11月7日に当法人の主たる事務所の住所を東京都中央区日本橋三丁目14番10号（第一三共日本橋ビル10階）に移転し、同時に登記手続きを経て、同年11月11日に内閣府に変更の届出を行った（電子申請）。
- (9) 平成23年11月16日の第3回選考委員会において、平成23年度研究助成、平成24年度海外留学奨学研究助成の選考を行った。内、平成24年度海外留学奨学研究助成については、同年11月25日に内定者（4名）の面接を実施した。
- (10) 平成23年12月7日の第6回理事会において、平成23年度研究助成対象者の決定、平成24年度海外留学奨学研究助成対象者の決定、平成24年度事業実施要領、高峰記念第一三共賞審査委員改選、助成（褒賞）候補者推薦の依頼先、「選考委員会運営規程および選考方法の基準」改正、「褒賞審査委員会運営規程及び審査方法の基準」の改定について、審議され、承認された。
- (11) 平成24年2月8日の第7回理事会において、平成24年度事業計画及び収支予算、顧問選任規程制定、顧問選任、平成25年海外留学奨学研究助成応募要領改定について、審議され、承認された。
- (12) 同日、第9回高峰記念第一三共賞の贈呈式が実施された。
- (13) 平成24年2月27日に平成24年度事業計画及び収支予算書を内閣府に提出した。
- (14) 平成24年3月2日に第28回高峰カンファレンスを開催した。
- (15) 人事関係
 - a. 当法人の理事、監事、評議員、職員の変更はなかった。
 - b. 選考委員の就任：第4回理事会において、稲垣暢也先生、黒川峰夫先生、小池和彦先生が選考委員として就任することが承認された。
 - c. 研究業績褒賞審査委員の改選：第6回理事会において、研究業績褒賞審査委員は改選になり、杉村隆先生が退任し、猿田享男先生が就任することが承認された。
 - d. 顧問の就任：第7回理事会において、顧問選任規程の制定とともに、尾前照雄先生、杉村隆先生、吉永馨先生の顧問就任が承認された。

Ⅱ. 平成23年度事業報告

1. 平成23年度事業の概要

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	研究助成 (定款第4条-1)	63,000千円	平成22年度 @100万円×33件 平成23年度 @100万円×30件
	海外共同研究支援助成 (定款第4条-2)	4,000千円	@50万円×8件
	研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条-3)	1,000千円	@50万円×2件
	海外留学奨学研究助成 (定款第4条-4)	27,000千円	平成22年度 @50万円×6回×4件 平成23年度 @50万円×6回×5件
	その他助成事業費	24,885千円	
	助成事業計	119,885千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	研究業績褒賞費 (定款第4条-5)	10,945千円	第9回高峰記念第一三共賞
	シンポジウム開催 (定款第4条-5)	5,792千円	第28回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	9,439千円	
	研究業績褒賞事業計	26,176千円	
	合計	146,061千円	

2. 助成事業（公1）

(1) 平成23年度研究助成（定款第4条－1）

- a. 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、研究助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。
- b. 募集対象：日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満の研究者。
- c. 募集規模
 - ①1件当たり200万円とする。（助成期間は、2年間）
 - ②採択数：30件
 - ③平成23年度採択数：30件、附属明細書資料－1に掲載（平成23年度研究助成採択者参照）
- d. 募集方法
 - ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員、過去の褒賞受賞者に対して推薦を依頼した。
 - ②当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。
- e. 応募方法
 - ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員、過去の褒賞受賞者を推薦者とし、推薦要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付した。
 - ②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼した。
 - ③推薦者は応募者の中から、応募者選定ガイドラインに基づき、公正かつ適正に選定した。
 - ④応募者は、推薦書を取得後、所定の申請書、主要論文を当法人に送付した。
 - ⑤応募受付期間：平成23年4月1日～5月31日
 - ⑥平成23年度の実応募数：166件
- f. 選考過程：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる選考委員会による選考結果をもとに、第6回理事会にて30件の助成対象者を決定した。
- g. 研究成果の公表
 - ①助成者は、助成期間終了後、研究論文を当法人に提出する。
 - ②助成者の研究論文を基に、研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。尚、平成21年度研究助成並びに海外留学奨学助成の成果の論文について、当該報告集Vol.27として、平成23年11月7日に発刊した。
 - ③助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページにて掲載した。

(2) 平成23年度海外共同研究支援助成（定款第4条-2）

- a. 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。
- b. 募集対象：海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした、海外渡航或いは海外の研究者を招聘する者。
- c. 募集規模
 - ①1件当たり50万円以内とする。
 - ②採択数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内とする。
 - ③平成23年度採択数：8件、附属明細書資料-2に掲載（平成23年度海外共同研究支援助成採択者参照）
- d. 募集方法
募集方法は、「研究助成」と同一。
- e. 応募方法
 - ①応募方法は「研究助成」と同一。
 - ②応募受付期間：平成23年1月15日～2月28日
 - ③平成23年度の応募数：24件
- f. 選考過程：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる選考委員会による選考結果をもとに、第4回理事会にて8件の助成対象者を決定した。
- g. 成果：実施終了後、実施報告書並びに収支報告書を入手している。

(3) 平成23年度研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条-3）

- a. 概要：萌芽的なテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。
- b. 募集対象：生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成
- c. 募集規模
 - ①1件当たり50万円以内とする。
 - ②採択数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内とする。
 - ③平成23年度採択数：2件、附属明細書資料-3に掲載（平成23年度研究会・シンポジウム開催助成採択者参照）
- d. 募集方法：当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。
- e. 応募方法
 - ①応募者は、所定の申請書必要事項を記入後、当法人に送付した。
 - ②応募受付期間：平成23年1月15日～2月28日
 - ③平成23年度の応募数：4件
- f. 選考過程：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる選考委員会による選考結果をもとに、第4回理事会にて2件の助成対象者を決定した。

g. 成果：実施終了後、実施報告書等並びに収支報告書を入手している。

(4) 平成24年度海外留学奨学研究助成（定款第4条-4）

a. 概要：海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。

b. 募集対象

①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。尚、医師免許取得者は37歳以下とする。

②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。

c. 募集規模

①1件当たり600万円とする。（助成期間は、2年間）

②採択数：5件

③平成24年度採択数：3件、附属明細書資料-4に掲載（平成24年度海外留学奨学研究助成採択者参照）

d. 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。

e. 応募方法

①応募方法は、「研究助成」と同一。

②応募受付期間：平成23年4月1日～5月31日

③今年度（平成24年度）の応募数：26件

f. 選考過程

①理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者（4名）を決定。

②選考委員会により、内定候補者の面接を実施し、最終内定者として4名を決定した。

③第6回理事会にて4件の助成対象者を決定した。

④その後、1名の辞退があった。

g. 研究成果の公表：「研究助成」と同一。

3. 研究業績褒賞事業（公2）

(1) 研究業績褒賞事業（定款第4条-5）

- a. 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在、活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。
- b. 褒賞名：第9回高峰記念第一三共賞
- c. 褒賞対象者：生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。
- d. 推薦方法
 - ①理事会において選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長、又は、当法人の理事・評議員・選考委員、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。
 - ②推薦期間：平成23年1月15日～2月28日
 - ③平成23年度の推薦数：10件
- e. 選考方法
 - ①第一次選考：選考委員会により応募候補者の選定を行った。第一次選考結果として、第一次候補対象者3件が選ばれた。
 - ②応募候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。
 - ③平成23年度の実応募数：3件
- f. 最終選考
 - ①高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に、審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。
 - ②第4回理事会において、褒賞受賞者を決定した。
- g. 公表：受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、プレスリリースを実施した。
- h. 受賞者及び受賞研究テーマ
 - ①受賞者：間野博行博士（自治医科大学教授）
 - ②受賞研究テーマ：「肺がん原因遺伝子の発見と分子診断法・分子標的療法の実現」
- i. 褒賞の方法および贈呈
 - ①賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。
 - ②贈呈式を実施し、表彰した（日時：平成24年2月8日、場所：東京會館）。
 - ③贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

(2) 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条-5）

- a. 概要：高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。
- b. 名称：第28回高峰カンファレンス
- c. 開催の内容
- ①テーマ：「肺がんにおけるチロシンキナーゼ阻害剤の新展開」
 - ②開催時期：平成24年3月2日
 - ③開催場所：東京會館
 - ④プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演
 - i) 記念講演
 - 座長：杉村隆先生（日本学士院幹事、国立がん研究センター顧問）
 - 演者：間野博行先生（自治医科大学教授）
 - 演題：EML4-ALKがん遺伝子：発見から臨床応用まで
 - ii) 講演
 - 座長：間野博行先生（自治医科大学教授）
 - 演者1：竹内賢吾先生（公益財団法人がん研究会がん研究所分子標的病理プロジェクト プロジェクトリーダー）
 - 演題：Hunting ALKoma
 - 演者2：光富徹哉先生（愛知県がんセンター中央病院副院長 呼吸器外科部部長）
 - 演題：EGFR遺伝子変異が開いた肺癌の個別化治療の扉
 - 演者3：矢野聖二先生（金沢大学 がん進展制御研究所 腫瘍内科教授 金沢大学附属病院 がん高度先進治療センター センター長）
 - 演題：肺がんの分子標的薬耐性：リガンド刺激による耐性機構を中心に
- d. 応募方法及び出席者数：募集期間（平成23年12月15日～平成24年2月19日）を設定し、高峰カンファレンステーマに関連する研究を行う大学大学院、研究機関等にポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、69名の参加者を得た。
- e. 開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

4. 附属明細書

[資料-1]

平成22年度研究助成採択者

33件（交付金：1件 100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名（申請時）	研究課題
青木 浩樹	久留米大学循環器病研究所・准教授	大動脈瘤におけるマクロファージの機能制御と特異的サイトカイン療法の開発
池谷 裕二	東京大学大学院薬学系研究科・准教授	脳血管障害の新規なシステム薬理的評価系の構築
井上 邦夫	神戸大学大学院理学研究科生物学専攻・教授	癌化に伴う新規の異常スプライシング機構の解明
大木 理恵子	国立がん研究センター研究所細胞増殖因子部・研究員	新規がん抑制遺伝子PHLDA3によるがん遺伝子Aktの抑制機構の解明
大塚 文男	岡山大学病院内分泌センター・准教授	卵巣機能制御の新しい分子BMP：その活性の発現機序と医療への応用
岡 浩太郎	慶應義塾大学大学院理工学研究科・教授	神経ガイダンスを司る細胞内情報伝達過程の可視化とその光制御
岡崎 拓	徳島大学疾患ゲノム研究センターゲノム機能分野・教授	自己抗体産生制御メカニズムの解明
加藤 裕教	京都大学大学院生命科学研究科生体システム学分野・准教授	大脳皮質神経前駆細胞の増殖を制御する分子機構の解明
金子 修	長崎大学熱帯医学研究所原虫学分野・教授	マラリア原虫感染赤血球内タンパク質輸送機構の分子基盤
川口 寧	東京大学医科学研究所感染症国際研究センター・ウイルス学分野・准教授	ウイルスキナーゼおよびウイルス粒子成熟過程を標的とした新規抗ウイルス剤の開発
川崎 善博	東京大学分子細胞生物学研究所分子情報研究分野・講師	大腸癌幹細胞の発生・維持に関わる機構の解明
北村 浩	名古屋市立大学大学院医学研究科病態モデル医学分野・准教授	マクロファージの新しい膜型キナーゼLAM27の炎症応答における役割とその分子メカニズムの解明
清中 茂樹	京都大学大学院工学研究科・助教	新規カルシウムチャネルに関するケミカルバイオロジーと創薬への応用
小泉 修一	山梨大学大学院医学工学総合研究部・医学学域・薬理学・教授	グリア細胞プリン作動性シグナルによる視神経機能制御に関する研究
後藤 英仁	愛知県がんセンター研究所発がん制御研究部・室長	新規Chk1リン酸化反応の制御機構およびその生理機能の解明
後藤 佑樹	東京大学大学院理学系研究科・助教	オキサゾール骨格を含む有機化合物ライブラリーの翻訳合成と新規podoplanin阻害剤の開発へ向けたその応用
齋藤 敦	宮崎大学医学部解剖学講座分子細胞生物学分野・助教	小胞体ストレス応答による生体制御の分子機構解明
坂本 浩隆	岡山大学大学院自然科学研究科・准教授	代謝型グルタミン酸受容体サブタイプ7遺伝子欠損マウスを用いた脊髄レベルにおける雄性機能の神経制御メカニズムの解明

氏名	所属機関・職名（申請時）	研究課題
笹田 哲朗	久留米大学医学部免疫・免疫治療学講座・准教授	上皮間葉移行（EMT）を標的とした新しい免疫療法の開発
清水 律子	東北大学大学院医学系研究科分子血液学分野・教授	GATA2による血球の運命決定機構とその破綻による白血病発症メカニズムの解析
白川 龍太郎	東北大学加齢医学研究所基礎加齢研究分野・助教	RalGAPの制御機構の解明とその異常の解析
高橋 智聡	金沢大学がん研究所腫瘍分子生物学研究分野・教授	がん幹細胞標的薬の探索を目指したin vitroがん幹細胞モデル系の開発
高橋 将文	自治医科大学分子病態治療研究センターバイオイメージング研究部・教授	心血管疾患における初期炎症惹起の分子的機序の解明とその治療への応用
寺内 康夫	横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学・教授	高脂肪食長期負荷による肝細胞癌発がんモデル動物の樹立とその分子機構の解明
中島 利博	東京医科大学医学総合研究所・教授	E3ユビキチンリガーゼ シノビオリンによる臓器線維化発症の分子メカニズム
秦野 伸二	東海大学医学部基礎医学系分子生命科学・准教授	ゲノム部位特異的遺伝子導入法を用いた新規筋萎縮性側索硬化症モデル動物の作出と解析
原田 彰宏	大阪大学大学院医学系研究科細胞生物学講座・教授	インスリン分泌や感受性を司る遺伝子の欠損マウスの作製解析によるインスリン分泌や感受性の分子機構の解明
疋田 貴俊	大阪バイオサイエンス研究所システムズ生物学部門・研究員	大脳基底核神経回路の制御機構の解明
丸山 博文	広島大学原爆放射線医科学研究所分子疫学研究分野・准教授	筋萎縮性側索硬化症の原因遺伝子Optineurinのモデルマウスの作製・評価
南 敬	東京大学先端科学技術研究センター・特任准教授	内皮エピゲノム転写調節機構の包括的解明に基づく抗血管疾患へのアプローチ
南野 徹	千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学・講師	老化からみた生活習慣病治療の開発
安友 康二	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授	炎症応答を制御するNotchシグナルの分子基盤の解明
吉田 秀郎	兵庫県立大学大学院生命科学研究科・教授	ゴルジ体ストレス応答を制御する転写因子TFE3とMLXの発現・活性調節機構の解析

平成23年度研究助成採択者

30件（交付金：1件 100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名（申請時）	研究課題
荒井孝義	千葉大学 大学院理学研究科化学コース ・教授	含窒素ヘテロ環化合物ライブラリーによる新規癌化機構の解明と制御
荒木靖人	埼玉医科大学ゲノム医学研究センター プロジェクト研究部門・助教	CD8陽性T細胞分化及び機能を制御するヒストン修飾関連酵素複合体の解明
伊藤素行	名古屋大学 大学院理学研究科生命理学 専攻・准教授	集合的細胞遊走を調節する分子機構の解明
稲田明理	九州大学大学院医学研究院 先端医療医学 糖尿病遺伝子分野・准教授	膵島β細胞の新生を促進するメカニズムの解明
内山真伸	東京大学大学院薬学系研究科・教授	有機金属/錯体化学と生命科学をつなぐバイオオルガノメタリクス研究
生沼泉	京都大学 大学院生命科学系研究科・助教	ガイダンス因子の細胞接着を介した普遍的役割の解明
扇田久和	滋賀医科大学 分子病態生化学・教授	がんの浸潤・転移におけるがん細胞と間質細胞の直接相互作用の役割と分子機構
尾野亘	国立病院機構 京都医療センター 臨床研究センター・客員室長	イントロン性マイクロRNA-33a/bのコレステロール・脂質代謝に対する役割の解明
加藤博己	京都大学ウイルス研究所 分子遺伝学分 野・准教授	ウイルス核酸センサー MDA5と腎炎発症との関わり
金崎啓造	金沢医科大学 糖尿病内分泌内科学・講 師	脂肪肝に対するCOMT不全の是正を介したオートファジー誘導治療戦略の開発
河崎洋志	東京大学 大学院医学系研究科・神経機 能解明ユニット・特任准教授	高等哺乳動物を用いた脳神経系形成メカニズムの解明
北川裕之	神戸薬科大学 生化学研究室・教授	コンドロイチン硫酸鎖による軟骨分化制御機構
久原篤	甲南大学 理工学部生物学科・講師 (PI)	線虫C. エレガンスをモデル系とした神経回路構成システムの解析
黒田真也	東京大学大学院理学系研究科生物化学専 攻生物情報科学科・教授	インスリン作用の生理と病態のシステム生物学
佐藤浩二郎	埼玉医科大学医学部 リウマチ膠原病科・ 講師	ヘルパーT細胞の分化・機能を制御する転写因子ネットワークの解明
高橋裕	神戸大学大学院医学研究科 糖尿病内分 泌内科学・講師	成長ホルモン、IGF-Iによる非アルコール性脂肪性肝炎の治療応用
高村史記	近畿大学医学部 免疫学教室・助教	抗原特異的メモリー CD8T細胞の肺粘膜への蓄積を目的とした新規インフルエンザワクチン開発の基礎研究
田口英樹	東京工業大学 大学院生命理工学研究科・ 教授	酵母プリオン研究に立脚したアミロイド伝播・非伝播の分子機構
館野浩章	独立行政法人産業技術総合研究所 糖鎖 医工学研究センター・研究員	新規未分化マーカーの開発
田中耕三	東北大学加齢医学研究所 分子腫瘍学研 究分野・教授	新規分子CAMPが細胞分裂期に作用する抗がん剤の効果に与える影響の解明

氏名	所属機関・職名（申請時）	研究課題
田中伸哉	北海道大学大学院医学研究科 腫瘍病理学分野 教授	癌化を制御するシグナル伝達アダプター分子Crkを標的とした新規治療薬の開発
田中芳彦	九州大学 生体防御医学研究所・准教授	3次元における樹状細胞の細胞動態を制御する新しい分子機構の解明
田村拓也	東京医科歯科大学難治疾患研究所・助教	神経変性疾患治療薬のin vivoスクリーニング；神経幹細胞におけるDNA損傷の神経変性への関与の解明
中井彰	山口大学 大学院医学系研究科・教授	タンパク質ホメオスタシス経路の制御機構の解明
西田基宏	九州大学大学院薬学研究院・准教授	心臓の早期老化におけるTRPC3チャネルの役割解析
野村真	京都府立医科大学 大学院医学研究科・神経発生生物学・准教授	成体脊髄神経幹細胞における受容体型チロシンキナーゼEphBの機能解析
藤谷与士夫	順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学・准教授	オートファジーはヒトIAPPによる細胞毒性から膵β細胞を保護するか？
古川貴久	財団法人大阪バイオサイエンス研究所 発生生物学部門 研究部長	網膜未分化前駆細胞の多分化能の制御機構の解析
松下正之	琉球大学 大学院医学研究科・教授	低酸素応答を制御するストレス顆粒形成機構の解明
山下俊英	大阪大学 大学院医学系研究科 分子神経科学・教授	多発性硬化症の病態形成機序の解明

平成23年度海外共同研究支援助成採択者

8件（交付金：1件 50万円/件）

(50音順、敬称略)

申請者名・所属機関・職名 (申請時)	共同研究者名 所属機関・職名	A：共同研究テーマ B：共同研究開始時期 C：期間
小澤 敬也 自治医科大学医学部内科講座血液学部門教授	Renier Joseph Brentjens, M.D., Ph.D. Assistant Professor of Medicine, Weill Medical College of Cornell University 米国	A：悪性リンパ腫を対象とした養子免疫遺伝子療法（キメラ抗原受容体発現Tリンパ球を用いた遺伝子細胞療法）の臨床開発 B：2009年8月 C：平成23年12月7日～23年12月14日（8日間）、渡航
片桐 岳信 埼玉医科大学ゲノム医学研究センター・教授	Tatsuya Kobayashi Assistant Professor of Medicine Endocrine Unit, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School 米国	A：生理的および病的骨格形成の分子メカニズムに関する研究 B：2001年7月 C：平成23年9月2日～23年9月7日（6日間）、渡航
小嶋 聡一 (独) 理化学研究所分子生物病態学・チームリーダー	Scott L. Friedman Professor Division of Liver Diseases, Mount Sinai Medical Center 米国	A：TGF- β 活性化反応を標的とした肝疾患の分子病態解明に基づく新規診断、治療・予防法の確立 B：1998年4月 C：平成24年2月16日～24年2月20日（5日間）、招聘
小林 拓也 京都大学大学院医学研究科分子細胞情報学・講師	Brian Kobilka Professor of Molecular and Cellular Physiology and Medicine Stanford University, School of Medicine 米国	A：活性型及び不活性型GPCRの立体構造解明を目指した新戦略 B：2010年12月 C：平成23年12月1日～23年12月14日（14日間）、渡航
鈴木 淳一 東京大学先端臨床医学開発講座・特任准教授	Peter Libby, MD Mallinckrodt Professor of Medicine at Harvard Medical School Brigham and Women's Hospital Harvard Medical School 米国	A：プロスタグランジンE2およびその受容体の心血管疾患における影響の解明と特異的作動薬の開発 B：1999年 C：平成23年11月17日～23年11月22日（6日間）、渡航
田中 好幸 東北大学大学院薬学研究科・准教授	Vladimir Sychrovsky Senior Scientist Institute of Organic Chemistry and Biochemistry, Academy of Sciences of チェコ共和国	A：核酸分子の構造化学特性に基づく損傷DNA修復機構の解析 B：2007年 C：平成23年8月20日～23年9月20日（32日間）、招聘
濱崎 万穂 大阪大学大学院医学系研究科・助教	Marko Kaksonen Professor European Molecular Biology Laboratory (EMBL) EU	A：オートファゴソーム膜形成過程の改良型光顕・電顕相関法による解明 B：2010年4月 C：平成23年8月1日～23年9月14日（45日間）、渡航
藤田 直也 癌研究会 癌化学療法センター基礎研究部・部長	Jeffrey Engelman, M.D., Ph.D. Director, Center for Thoracic Oncology Massachusetts General Hospital Caner Centar 米国	A：EGFR/PI3K/Akt シグナル伝達系を標的とした分子標的治療薬の臨床における耐性化機構の解析 B：2010年4月 C：平成23年9月1日～23年11月30日（91日間）、渡航

平成23年度研究会・シンポジウム開催助成採択者

2件（交付金：1件 50万円/件）

(50音順、敬称略)

申請者名・所属機関・職名	会議名、場所、開催日、参加人数（予定）
平田 雅人 九州大学大学院歯学研究院教授	・「リン脂質機能の新機軸2011」 国際会議（九州大学創立100周年記念） ・福岡市東区海の中道 ホテル・ルイガンズスパ&リゾートー ・平成23年11月14日～16日（3日間） ・120名
森 正樹 大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学教授	・第8回 国際微量癌シンポジウム ・平成23年9月21日～9月23日（3日間） ・大阪国際会議場 ・約230名

平成22年度三共“フェロシップ”奨学研究助成[※]採択者

4件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
桑原 知樹	東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野・特任研究 Columbia University Medical Center 米国	iPS細胞由来ドパミンニューロンを用いたパーキンソン病の神経障害機構に関する研究
島田 和之	名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学・客員研究者 University of Southampton School of Medicine 英国	抗体療法を併用した化学療法の相乗的治療効果にかかわる分子基盤解析
西 良太郎	神戸大学自然科学系 先端融合研究環バイオシグナル研究センター・助教 Wellcome Trust/Cancer Research UK Gurdon Institute, University of Cambridge 英国	Identifying and characterizing new posttranslational modifications that control DNA double-strand break signaling or repair in mammalian cells.
西 晶子	独立行政法人 理化学研究所吉田科学遺伝学研究室 研究生 横浜市立大学 共同研究員 Cancer Research UK London Research Institute 英国	神経細胞突起における微小管形成とミトコンドリア機能の解析

※三共“フェロシップ”奨学研究助成は海外留学奨学研究助成の旧名称。

平成23年度海外留学奨学研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
伊藤保志	岐阜薬科大学薬効解析学研究室 大学院生 Department of Cell Biology, Harvard Medical School 米国	筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対する新規治療法の確立
岩井玲奈	東京大学大学院医学系研究科 大学院生 Columbia University 米国	網膜個性決定と立体視神経回路の形成における網膜色素上皮の分子機能
土屋淳紀	新潟大学医歯学総合病院消化器内科（第三内科）医員 MRC/University of Edinburgh Center for Inflammation Reseach 英国	肝組織幹前駆細胞をターゲットとした新しい肝再生医療及び肝細胞癌に対する治療開発を目指して
中川勇人	東京大学医学部附属病院消化器内科 医員 University of California, SanDiago 米国	メタボリック症候群関連肝発癌におけるIKK/NF-kappaBの役割
三吉範克	大阪大学医学部附属病院消化器外科 医員 Massachusetts General Hospital & Harvard Medical School 米国	多能性幹細胞の誘導と臨床応用のための開発研究とくに腫瘍化に関わる遺伝子発現解析についての研究

平成24年度海外留学奨学研究助成採択者

3件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
今井駿輔	東京大学大学院 薬学系研究科・特任研究員 Harvard Medical School 米国	IRES依存的翻訳機構の構造生物学的解明
岩崎正治	九州大学 医学部（医学科）学部生（医学博士） Scripps Resarch Instiute 米国	出血熱アレンウイルスの複製や遺伝子発現を制御する宿主因子の同定と機能解析
川岸裕幸	国立長寿医療研究センター研究所 老化細胞研究プロジェクトチーム流動研究員 National Institutes of Health 米国	オートファジー活性化時におけるDNA損傷応答機構の役割と代謝系疾患との関連